(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2020-192192
(P2020-192192A)
(43)公開日　令和2年12月3日(2020.12.3)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A46B 5/00	(2006.01)	A46B	5/00	D	3B202
A46B 3/18	(2006.01)	A46B	3/18		
A61C 15/02	(2006.01)	A61C	15/02	501	

審査請求 未請求　請求項の数 1　OL　（全 3 頁）

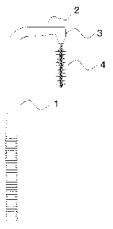
(21)出願番号　特願2019-100790 (P2019-100790)
(22)出願日　令和1年5月29日 (2019.5.29)

(71)出願人　719002311
佐藤　公一
宮城県仙台市太白区鹿野本町１６番５号
(72)発明者　佐藤公一
宮城県仙台市太白区鹿野本町１６番地５号

Fターム(参考)　3B202 AA03　AB30　BA10　BA11　EE07

(54)【発明の名称】裏面用歯間ブラシ

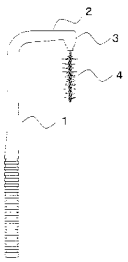
(57)【要約】　（修正有）
【課題】直角に歯間にブラシを挿入することが容易にできる歯間ブラシを提供する。
【解決手段】長手ロッド１は、歯の中央側になるように配置する。右側の歯間を磨く場合は、右手で長手ロッドを持ち、長手ロッドとブラシ４を略水平に保ちながら、直角に歯間にブラシを挿入することが容易にでき、短時間で、歯間と歯肉を容易に、正確に、磨きに偏りが無く、安定して、奥歯間まで磨く事が出来る。又左側の歯間を磨く場合は左手で長手ロッドを持ち、長手ロッドとブラシを略水平に保ち、直角に歯間にブラシを挿入することで、奥歯間まで磨く事が出来る。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
長手ロッド状の柄部の先端に直角に先端ロッドを設ける。先端ロッドの先端に直角にブラシ用台座を取り付ける。ブラシ用台座にブラシを長手ロッドの柄部側に向かって平行に延び出すように設置する、裏面用歯間ブラシ。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、歯間を磨くブラシに関するものである。
【背景技術】
【０００２】
側面から歯間を磨く事は容易でなく、特に奥歯の歯間を正確に短時間で磨く事は困難である事は知られている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００３－３１９８３０
【特許文献２】特開２００８－１５４９０１
【特許文献３】特開２００９－２４０４９３
【特許文献４】特開２０１０－０８２０２９
【特許文献５】再表２０１６－１６７１９１
【特許文献６】特開２０１６－１９８５４６
【特許文献７】特開２０１８－０２５３０３
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
従来から不完全な歯間の清掃が、虫歯の原因とされていた。しかしながら歯間を正しく磨く事は簡単ではなく、特に奥歯の歯間を磨く事は容易でなく、正しく磨くには時間が掛かり、簡単ではなかった。本発明は以上の問題を解決するために、裏面用歯間ブラシを提供することにある。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
長手ロッド状１の柄部の先端に直角に先端ロッド２を設ける。
先端ロッド２の先端に直角にブラシ用台座３を取り付ける。
ブラシ４をブラシ用台座３に、長手ロッド１の柄部側に向かって平行に延び出すようにした。以上の構成によりなる裏面用歯間ブラシ。
【発明の効果】
【０００６】
虫歯の原因とされていた、歯間を正確に、短時間で磨く事は困難です。
長手ロッドとブラシを略水平な状態からブラシを裏面から歯並びに直角にブラシを歯間に挿入し、磨く事により、容易に、短時間で、正確に、安定して奥歯間まで、磨く事が出来る。このことにより、虫歯の患者数の減少が考えられ、医療費の低減に貢献できるという利点がある。
【図面の簡単な説明】
【０００７】
【図１】図１は本発明の平面図
【図２】図２は本発明の断面図
【発明を実施するための形態】
【０００８】
以下本発明の実施の形態を説明する。

（イ）　　長手ロッド１　　先端ロッド２　　ブラシ用台座３　　ブラシ４
本発明を使用するときは、長手ロッド１とブラシ４を略水平な状態からブラシ４を裏面から歯並びに直角にブラシ４を歯間に挿入し、長手ロッド１を歯の先端に接触するようにして磨くと容易に、短時間で、正確に、安定して奥歯間まで良く磨ける。
【符号の説明】
【０００９】
１　　長手ロッド
２　　先端ロッド
３　　ブラシ用台座
４　　ブラシ

【図１】



【図２】

